

令和3年度 学校評価実施報告書

学校名 (小栗栖中 学校)

教育目標	
『自ら課題を見つけ、他者と協働しながら、探究しつづける生徒の育成』	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し ・今年度より学校教育目標を一新。少しずつ教職員、生徒に浸透してきているように感じる。 ・来年度も基本的に継続していく予定である。 ・まだまだ「自ら課題を見つける」までには到達できていないことが多く、探究まで行きつけない。 ・来年度、生徒がどのような形で「アウトプット」することができるかということを追究する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・教育目標に関しては十分にご理解をいただき、実現するように応援をいただいているとともに、令和7年度に向けて大いに期待を寄せられている。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和3年10月8日	学校運営協議会理事他
最終評価	令和4年3月11日	学校運営協議会理事他

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標
○「授業で生徒が変わる」
具体的な取組 ・「学力向上チーム」を核とした、分析・考察・提言機関としての機能を高め授業改善等学びの質の向上を図る ・「教科会」を軸に、各教科における家庭学習の習慣化や定着などの重点指導目標の共有や達成に向けた取組を確実にする ・小栗栖ならではのカリキュラム・マネジメントの視点で探究的な学習を設定し、道德・総合的な学習の時間と関連付ける ・新設した「自学室」、GIGAスクール構想としての「多目的室A・B」などを活用し、生徒の学びの場の学習環境を整備する ・学校図書館の整理と充実させることにより、学習活動に活かす取組を促進する ・「考える道德」の定着に向けて実践し、道德的判断力を醸成する。学年道德、全校道德などを積極的に取り入れる。

- ・小学校と連携し、7年間を通した「総合的な学習の時間の全体計画」の作成

（取組結果を検証する）各種指標

- ・「教科会等で授業の改善の話し合い活動ができているか」
- ・「平日や週末の学習課題は取組めているか」
- ・「学校図書館を活用できているか。また、図書館を活用した授業が行えているか」
- ・「自学室や多目的室などを活用し、自主学習の環境整備ができているか」
- ・「道徳を通じて生徒を生かす場をつくろうとしているか」

中間評価

各種指標結果

- ・「学校生活が楽しいと感じている（いそいそと学校に通っている）」というアンケートの重要度は、「とてもそう思う」「そう思う」の合計で86%を超えており昨年度と同様に期待値は高く、達成度は同項目で「とてもそう思う」「そう思う」の合計が76%の高い数値を残している。
- ・学校図書館の活用率が昨年度に比べて向上している。授業での利用が少ないことは変わらないが、レイアウトなど改革が成功しつつある。蔵書の内容の精選が必要。
- ・全国学力・学習状況調査の生徒質問用紙の中から抜粋して1・2年生にもアンケートを実施した。経年を比較しつつ、結果を分析し活用したい。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・学習確認プログラムに対する意識が少しずつではあるが向上し、少なからず結果に表れてきていることが意欲の向上につながっている。
- ・2年目となり、小栗栖中学校の生徒に「いそいそ」という言葉が定着してきた。未だに全校集会的な場所で共有することができていないが、生徒たちの中に浸透してきていることが、生徒たちの会話からも伺える。
- ・生徒に取った学校評価アンケートで、「小栗栖中学校は、基礎学力をつけるために学習に力を入れている」に対する回答で重要度「とてもそう思う・そう思う」の合計は89%あるにもかかわらず、達成度は「とてもそう思う」28%、「そう思う」41%で、まだまだしっかりと機能しているとは言えない。
- ・全国学力・学習状況調査の質問紙から抜粋した独自のアンケートの「家で自分が計画を立てて勉強をする」の項目では、「している」が全校で13%しかなく、一方、「あまりしていない・全くしていない」の回答に注目すると、合わせて55%～65%の割合で各学年に存在し、昨年度より増えている。「家庭学習の定着」ということが夏季研修会で課題として挙げられた。
- ・宿題については、質・量・取組方法などについて、家庭学習を通して「どのように学ぶか」と視点で捉え、児童・生徒の学習習慣の確実な定着につながるよう、検証が必要である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・学校で学んだことを学校で完結させるのではなく、学んだことを基に実社会で自ら課題を発見し、追究して解決する資質・能力、学び続けようとする態度を身につけさせることを意識した授業展開を教員がまず意識し、実践できるように研修を重ねる。
- ・各授業で実施している授業のめあて・振り返りをさらに定着させる。
- ・未来スタディールームを自学室に改修し、活用が増えてきているのでさらに活用できるようアピ

	ールする必要がある。 ・各授業で「問いを作ること」を児童生徒が意識する授業の展開を意識する。 ・主体的な学びにつながる自学自習の習慣の定着を図る取組が早急に必要である。 ・保護者にも定期的に伝えることで家庭との連携・協力をより一層強化する。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・学校教育目標、めざす子ども像から見える授業や取組の達成度 ・自分の意見や思いを正しく伝えるために、筋道を整え、考えをまとめる力の必要性 ・学習確認プログラムの結果 ・家庭学習・宿題の内容・読書の在り方の検証結果
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・自分の意見や思いを相手にしっかり伝える力の育成をしてほしい。 ・学校評価アンケートの達成度の回答について「わからない」という回答が少しずつ減少してきている。引き続き、様々な取組が十分に伝わるように工夫していく。 ・学校運営協議会の活動の充実と学校の取組への側面的な支援

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 中間評価時に設定した各種指標結果 ・「学校生活が楽しいと感じている (いそいそと学校に通っている)」というアンケートの重要度は、「とてもそう思う」「そう思う」の合計で 80%を超えており期待値は高く、達成度は同項目で「とてもそう思う」「そう思う」の合計が 75%の高い数値を残している。確実に「いそいそ」が定着しつつある。 ・アンケート結果の中で、「授業が分かりやすい」という質問に対し、コロナの影響も考えられるが 40%台になってきたことは大いに反省すべきである。
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・「授業で生徒を変える」でスタートした昨年度から「授業で生徒が変わる」に置き換えた。2年生の国語で学習確認プログラムの結果が、上昇及び安定してきているのは、明らかに「生徒が変わった」ところに要因がある。続けて指数が100を超えるということは定着してきている成果である。担当の教員が夏季研修会で講師を務めてレクチャーするなど教職員にとっても大きな刺激となっている。 ・コロナによる学校閉鎖、自主的な登校控えなど、学力の定着に妨げとなる要素が長く続いたことは時間をかけて取り組んできたことを振り出しに戻すところがあった。 ・昨年度に比べると3年生が大変落ち着き、授業への集中度は高くなった。しかし公立前期選抜の合格者が30%をようやく超える程度に収まったのは大きな課題である。 ・自主学習という以前に、宿題、自主学習等の家庭学習の取り組みについて、保護者との連携・協力が必要である。 分析を踏まえた取組の改善 ・「授業で生徒が変わりつつある」ことは事実であり、教員自身が自信を持ち、変わらせようとする姿勢を持ち続けてもらいたい。「変わった生徒をどのように育てるか」という視点で取り組み、さらに次のステップに飛躍したい。 ・未来スタディールームの改革 (個人ブース化)、多目的室の整備など、生徒が学習するにあたり、環境を整えることを意識し、令和7年度以降も使用できる物という視野で、先行購入し、小栗

	栖から変えることに積極的に取り組んだ。 ・生徒の意識改革はもちろん、教員側の意識改革が急務である。 ・宿題が出しっぱなしにならないように、評価を保護者にも定期的に伝えることで家庭との連携・協力を図る。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・なかなか生徒が活動している場面などを観ていただく機会がなかったが、生徒が意欲的に取り組もうとする姿勢が見えてきていることは評価いただいている。

（２）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標
○「自ら律する力」の向上を目指した教育活動の実践 ○自他を大切にし、公共の精神に基づく態度を育む
具体的な取組
・学年実態に応じたコミュニケーション活動を通して、他者にやさしくかかわれる態度を育む ・人権に関わる学習を月例化し、「人権道德」や「人権学活」として行う ・学校のきまりや法令遵守の態度を育成・定着していく指導を行う ・生徒の自主性や意欲を高めていける生徒会活動をしっかりと支える ・小中の教職員が子どもの『育ち』の姿を共有するための礎として、小中連携の行事に取り組む ・「考える道德」の定着に向けて実践し、道德的判断力を醸成する ・道德の評価について研究・実践し、年に２回程度の保護者への評価提示を行う ・地生連や地域の活動への積極的な参加をすすめ、地域を大切にできる学校の創造をめざす
（取組結果を検証する）各種指標
・「道德授業は積極的にできているか」 ・「学校や社会のルールは守れているか（守らせているか）」 ・「学校や社会のルールを理解させ守らせる指導をしているか」 ・「ＳＮＳのルールやマナーを守れているか（話をしている）」 ・「ＳＮＳの危険性やマナーについて指導できているか」

中間評価

各種指標結果
・学級での道德だけではなく、学年道德を実施すること、コロナ禍で招聘できていない外部の人材を活用すること、学年体制で指導内容検討をすることで道德の授業を工夫し、保護者参観を呼び掛け、保護者からの意見を求める。 ・指導と評価の一体化の視点から、道德の評価が授業の改善につなげられるよう、学年・学校体制で取り組んでいる。 ・生徒会活動での異学年交流と縦割り集団活動の実践が実施しにくい中、工夫しながら、自己有用感の涵養につながるよう工夫している。
自己
分析（成果と課題） ・道德教育推進教師と道德主任は別にし、指導内容や時数確認、企画を分担することでそれぞれ

評価	の役割を果たしている。 ・文化祭を中止し，体育的発表も縦割り集団での取組ができず，交流が持てていない。
	分析を踏まえた取組の改善 ・3年間を見通した道徳の授業の在り方，評価の在り方の研究・共通理解に取り組む。 ・異年齢学年での交流や複数の学年での交流による行事を精選し取組を進める。 ・地域との関連性（保育園・幼稚園との交流・お年寄りとの交流等）をコロナが沈静し次第，高めていきたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・年間指導計画と各学年の実施状況の点検と指導内容の検討・改善。 ・縦割り集団活動を通した取組の推進，生徒会活動での異学年交流と縦割り集団活動の実践をし，自他を大切にすることを育成する。 ・クラスマネジメントシート。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・ホームページ，学級通信等を通しての道徳の授業の内容を家庭内での話題作りにできるようにして，家庭の教育力の向上のつなげてほしい。 ・地域行事が再開したら，参加を促すことで，人と人とのつながりを実感してほしい。 ・挨拶をすることの大切さ・意義を子どもたちに伝えてほしい。 ・地生連・少年補導委員会の諸行事の実施できれば仲間意識を持たせる。 ・登校時の見守り活動を通した支援。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・道徳教育推進教師と道徳主任を核に学年体制で指導内容検討をすることで道徳の授業を工夫した。 ・指導と評価の一体化の視点から，道徳の評価が授業の改善につなげられるよう，学年・学校体制で取り組んでいる。 ・生徒会活動での異学年交流と縦割り集団活動の実践がコロナの関連で想定よりも停滞している。	
自己評価	分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題 ・道徳教育推進教師と道徳主任が連携し，指導内容や時数確認，企画を分担することを続ける。 ・体育大会・文化祭などが縮小されたため，縦割り集団での取組を定着できなかった。来年度は，体育の部で縦割り活動の充実に向けて，競技内容の見直しが必要。 ・総合的な学習の時間で積極的に交流を取り入れる。
	分析を踏まえた取組の改善 ・道徳の授業の評価について，指導と評価の一体化を踏まえた，より一層の共通理解が必要。 ・道徳の評価の研究・共通理解がまだまだ停滞している。 ・小学校と連携し義務教育，9年間での「豊かな心」の育成に向けて，現存の行事・取組等（学年での交流や複数の学年での交流による）を精選し取組を進める。縦割り活動のより一層の充実。来年度は体育の部で縦割り活動の充実を図る。 ・コロナが収まれば地域との関連性（保育園・幼稚園・お年寄りとの交流等）を復活させる。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・保育園・幼稚園は大変協力的で交流を望んでいただいている。新しい生活習慣の中で何ができるかを模索し，新たな展開を試みたい。

価	
---	--

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標 ○働き方改革を実践し、より働きやすい、働きたくなる職場にする ○健康な生活習慣を基盤として、「安心・安全」な学校生活の意識を向上させる	
具体的な取組 ・感染症対策を徹底して行う ・保健教育・食に関する指導・安全教育・防災教育などを関連づけ、調和のとれた「自己管理能力」をもった生徒の育成を目指す ・「健康第一」のための職場環境の充実をはかり、心身ともに健康な生徒の育成を目指す ・部活動ガイドラインに基づき、「ノー部デー・土日のいずれかの休養日」の設定を遵守し、心身ともに健康な生徒の育成を目指す ・健康を保持増進していく態度を育てていくための取組を積極的に行う ・組織的・計画的な安全管理体制を整え、「子どもの命を守りきることができる教職員体制の確立」を目指す ・非行防止教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室を実施し、生徒の意識の定着を図る ・生活習慣を自ら見直し、築いていく力を育てる取組を実践する	
(取組結果を検証する) 各種指標 ・「規則正しい生活ができているか」 ・「生活習慣確立に向けた指導をしているか」 ・「健康や安全に関して、自ら考えていくよう指導できているか」	

中間評価

各種指標結果 ・独自で行った調査の「朝食を毎日食べていますか」という項目について、「毎日食べている」が66%「ほとんど食べている」が20%で、昨年度に引き続き、一定安心している。「全く食べていない」の7%について原因を探るとともに改善を図りたい。 ・遅刻が減らないことが全校的な課題である。(生活習慣の確立を家庭でも学校でも) ・部活ガイドラインに基づき部活動停止日の設定、各部毎に休養日の設定している。大会が中止になることによりモチベーションは下がっている。 ・生徒の体力と学校行事とを関連させ、行事予定表の作成を心がけた。	
自己評価	分析(成果と課題) ・生徒会が薬物乱用防止について啓発の発表をするなどの、生徒および保護者への啓発活動ができていない。(企画するも集まらない。リモートでは伝わりにくい) ・生徒が自分の健康管理に向き合えるようにもっていくためにも、朝食の摂食、起床就寝、自己管理等の基本的な生活習慣の点検について継続的に取り組んでいく必要である。 ・ガイドラインを遵守し、部活動の運営に努めることができている。

	分析を踏まえた取組の改善 ・薬物乱用教室，非行防止教室を，発達段階をふまえて系統立てて実施する。 ・食教育に対する意識を教職員ともども向上させ，と関連付けた健康教育を進め，自己管理能力を育む基本的生活習慣の確立に向けた取組を推進する。 ・部活動ガイドラインの趣旨を踏まえて，生徒に充実した活動をさせるために，科学的で計画的な指導方法の工夫をする。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・薬物乱用教室・非行防止教室を単発的に終わらせるのではなく継続的に取り組む。 ・朝食の摂食，起床就寝，自己管理等，基本的生活習慣の点検 ・部活動ガイドラインに基づき，クラブ活動・部活動実施状況の点検および生徒の活動状況の把握。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・薬物使用の低年齢化が社会問題となっている中で，薬物乱用防止教室などの取組を学校がしっかりと続けてほしい。 ・部活動ガイドラインにより，運動の機会が減っていると子どもが捉えているのであれば，教育活動の中で，生涯スポーツに親しむ機会を増やすべきである。 ・学校運営協議会としても関連諸行事に積極的に協力する。

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・薬物乱用防止の取組，命を考える取組を子どもたちが主体的に実践を進めている。 ・生徒の体力と学校行事とを関連させ，行事予定表の作成を心がけたが実施できない行事があった。 ・食教育と関連付けた健康教育を進め，自己管理能力を育む基本的生活習慣の確立に向けた取組を推進するために，掲示物の工夫を行った。 ・部活動が実施できた期間では，部活ガイドラインに基づき部活動停止日の設定，各部に休養日を徹底している。
	分析 (成果と課題)，重点目標の達成状況，次年度の課題 ・コロナの影響は，手洗い・消毒・マスクの習慣が徹底され，コロナの陽性者は若干発生したが，インフルエンザの罹患は今年度もゼロであった。 ・朝食の摂食率は高い値（８０％強）を取っているが，起床・就寝，自己管理等の基本的生活習慣の点検について継続的な取り組みが必要である。 ・部活動ガイドラインを遵守し，部活動の運営に努めることができた。 ・毎日の体調チェックに加え，長期休業明けに「生活調べ」を継続的に実施している。生活リズムの見直しを保護者と一緒に見直すことができたことは，児童の自己管理能力の育成につながっている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・身についた手洗い・消毒・マスクの励行は今後も継続していく。 ・健康教育の中で，特に食教育の推進が課題である。 ・自己管理能力を育む基本的生活習慣の確立に向けて，小学校と連携し９年間の系統性も持った継続した取組が必要。（中学校からの取組では限界があり統合に向けての先取りとして実施） ・部活動ガイドラインの趣旨を踏まえて，生徒に充実した活動をさせるために，科学的で計画的な指導方法の工夫をする。

	・薬物乱用教室，非行防止教室等の実施により，徹底した指導を系統立てた取組とする。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・生徒の生活アンケート集計を共有する中で，朝食の摂取率については話題に上がり，100%を目指せるように保護者も協力していくよう共通理解ができた。 ・部活指導については今後地域の協力も視野に入れていく必要がある。

（４）学校独自の取組

重点目標	○将来の夢や展望を持ってチャレンジする『確かな個』
具体的な取組	・学習規律の徹底を図り，学習に対する積極的な態度の育成（１年） ・コミュニケーション活動を取り入れた授業の積極的な展開 ・ＴＴ授業の積極的な展開 ・学習室を活用した自学自習へ向けた環境整備 ・未来スタディ，長期休業における補充学習会・自主学習会の実施 ・道徳的判断力，道徳的实践力の向上を目指し，教科書を積極的に活用した道徳授業 ・育成学級生徒や外国にルーツのある生徒について，正しい知識と認識が持てることを目指した学習の実践 ・社会の一員であることの自覚を高めていくためのキャリア教育活動の実践 ・小中一貫を意識した交流活動の継続的な実践 ・小栗栖中学校の教員が校下３小学校の授業行う。 ◎６年生の算数の授業に週２回Ｔ２として参加する（通年） ◎５年生・６年生の音楽の授業を全て行う（通年）
（取組結果を検証する）各種指標	・小中合同研修会の開催。 ・９年間を見据えた指導指針の創造に向け，教科連携。 ・小中相互の授業参観の実施。 ・家庭学習課題についての現状確認及び今後に向けての協議を行う。 ・生徒会と児童会との交流会の実施。

中間評価

各種指標結果	・独自で実施したアンケートでは総合的な学習の時間についての意識が低く，「自分で課題を立てて情報を集めたりすることを「できている」と感じている生徒が２２％に過ぎず昨年度と変わっていない。しかし教員側の中に意識は芽生えつつある。 ・令和７年度新校開校については，保護者・地域の回答が重要度で「とてもそう思う」３７％「そう思う」４４％で合わせても８１％，さらに達成度に至っては「とてもできている」１２％「できている」４４％とまだまだ実感がわいていない。
自	分析（成果と課題）

己 評 価	・小栗栖中学校の教員が校下3小学校の授業行っていることは評判がよく成果も上がっている。 ・コロナ禍でリモートではあったが小中合同の研修が、夏休みに4校合同で研修が行えたことは一定の成果である。みんなが一つの目標に向かい、その意義を共有するきっかけとなった。 ・文化的発表の場面で発表するために、今年度は各学年で取り組んだ制作が、まだ完成していないが、その作成意義を共有しながらコロナ禍の中で形を残していきたい。 ・3小学校との連携の中で、来年度の一次統合、3年後の本統合に向けた予算の活用方法、共有できる備品の計画的購入など、連携を取ることができた。
	<u>分析を踏まえた取組の改善</u> ・コロナの影響で授業時間確保が優先され、独自の取組が制限された。 ・総合的な学習の時間を見直し、地域との交流、学年間交流を活性化させる。(コロナの沈黙語) ・中学3年の修学旅行の内容を小学校6年生と関連付けて再構築。(3小学校との連携)
	<u>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</u> ・学校評価アンケート ・様々な繋ぎ(結び)の実践の振り返り。
学 校 関 係 者 評 価	<u>学校関係者による意見・支援策</u> ・保護者・地域を巻き込んだ良い取組を行ってほしい。 ・ホームページや学校だよりは学校全体の様子が伝わってくる。更新、発行を楽しみにしている。

最終評価

自 己 評 価	<u>中間評価時に設定した各種指標結果</u> ・独自で実施した生活アンケートで、経年変化を追いつつ比較してみると、コロナによる影響から肯定の割合が多く多くの項目で減少している。 ・総合的な学習の時間で「自分で課題を立てて情報を集める」という項目に対し、3年生になると、「とてもそう思う」29%「そう思う」47%で合わせて76%となり1・2年生に比べると20%前後高く、修学旅行に向けた取組など経験を重ねることで明らかに重要性を実感できている。
	<u>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</u> ・保護者へのアンケート結果が「わからない」という回答が減り、学校だよりやホームページでの発信が少しずつ功を奏し、定着してきている様子がうかがえる。 ・小学生にポスター発表を実施することが実現し、新たな一步を踏み出すことができた。小学生は憧れや、頑張ろうという意識を持ってくれた。 ・小学校と連携し小学校3年生から系統立てた7年間の総合的な学習の時間を組み立てるための会議を小連携で継続して行えた。 ・地域教材やゲストティーチャーの活用の充実が必要。
	<u>分析を踏まえた取組の改善</u> ・学校だより、ホームページの更なる充実と発信の強化。 ・小学校3年から7年間の総合的な学習の時間の全体計画の策定と、小学校1・2年の生活科との関連も意識した、令和7年度の統合に向けた意識改革の先行実施。 ・小学生も巻き込んだ、学年間交流をさらに活性化させる。(小学生を中学校に) ・小学校の修学旅行と中学校の修学旅行の関連を系統立てて方面を精選。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・これまで学校だよりを地域に配布してなかったが、昨年度より配布することになり、地域からはその都度お礼や励ましをいただいている。継続していきたい。 ・ホームページへの関心が徐々に高くなり、学校運営協議会や地生連の集まりでも声を掛けていただいている。
---------	---

（５）教職員の働き方改革について

重点目標 ○教職員一人一人が働き方改革を実践し、より働きやすい働きたくなる職場にする	
具体的な取組 ・会議を精選，効率化する。 ・電話対応時間を午後 6 時 30 分までとし，以降は留守番電話に切り替える。 ・研修などを通じて，働き方改革に関する意識の向上を行う。	
（取組結果を検証する）各種指標 ・教職員の勤務時間 ・年休取得率 ・自主研修の回数	

中間評価

各種指標結果 ・教職員出退勤管理システムにより勤務時間を管理することで，時間外勤務時間の減少に向けての各教職員の意識は変わり，定着している。 ・長期休業期間を中心に，年休取得を積極的に取得している教職員が増加している。	
自己評価	分析（成果と課題） ・閉校時間（19:30 水曜日は 19 時）を示すことで，各教職員が勤務時間を意識した仕事の進め方をし，退勤するようになっている。しかし，行事の責任者，学年主任に仕事が集中する傾向があり，その教職員の時間外勤務が増えている月もある。 ・留守番電話（対応時間の限定）は保護者に定着している。 ・長期休業期間を中心に，年休取得を取りやすい職場にする。
	分析を踏まえた取組の改善 ・勤務時間を意識した働き方をするという意識改革は進んでいるが，学年や学校体制の中で仕事を分担する必要がある。 ・定期考査の午後に年休取得ができるよう，午後に行事を入れないようにし，年休取得を促進する。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・教職員の勤務時間（超過勤務の量） ・年休取得率（男性教員の育児休業を含む）

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・教職員の働き方改革の推進については、肯定的である。 ・教職員の働き方改革の推進の側面的な支援。 ・夜の会議の減少
---------	---

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・昨年度に比べて、さらに個々の時間外勤務は大きく減少している。 ・長期休業期を中心に年休の取得している。平日での年休取得率は昨年度と大きな変化はない状況である。 ・部活動が停止したことで超過勤務は大きく減少している。
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・学校体制での働き方改革の推進、教職員個々の意識改革により、時間外勤務は減少した。その分「子どもと向き合う時間を十分に確保する」ことが十分にできているかは疑問が残り、今後の改善が必要である。 ・定期考査の午後に年休取得促進のために午後に行事を入れないようにした。少し活用できたように思える。 ・校務支援員の登用はかなりの効果があり継続していきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 ・今後も学校教育活動全般の見直し（各行事の実施の有無・内容、各取組の有無・内容、校時表・完全下校時刻等）をしたいと考える。 ・上記の見直しを行う中で、定期考査の午後に年休取得促進を行う。 ・校務支援員の適切な活用の推進。（依頼内容の精選）
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・電話対応時間の短縮、水曜日の19時閉門には随分ご理解いただき、逆にもっと推進することもあるのではなかという協力的な声もいただいている。 ・どうしてもやむを得ない会議を除き、夜の会議を意識的に減らしていただいている。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標	いじめの未然防止のため、いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりを徹底する
具体的な取組	「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
(取組結果を検証する) 各種指標	① 全教職員が学校いじめ防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。 ② 学校のいじめ対策委員会メンバーを児童生徒に紹介している。 ③ いじめに係る既存の「学校評価：児童生徒アンケート項目」を活用し、経年変化を比較し教職員が共有し、適切な対応を迅速に行う。 ④ 児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果を含む）や相談内容を共有している。

- ⑤ 保護者や学校運営協議会に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明。周知している。

中間評価

各種指標結果	
・いじめに関するアンケートの活用により、大きくなる前に教員側でキャッチし適切な対応を心がけることができた。 ・アンケートについては回数を重ねることで、書くことに抵抗を持たなくなり、正直に書く傾向が見られ、効果が表れている。 ・生徒、保護者、地域、教職員が同じ視点でいじめに対する意識を持つことができるようになってきている。	
自己評価	分析（成果と課題）
	・補導部会に加え、いじめ対策委員会を定期的に開催し、クラス、学年にとどまらず風通しがいい環境を作れていることが、防止につながっている。 ・保護者からの声を敏感にキャッチし、連携を取ることができている。 ・教育相談の場面を多く設定し、生徒がいじめに関すること以外でも気楽に話せる状況を絶えず確立し、万が一に備えていることが生徒にも浸透してきた。 ・3小学校との連携の中で、兄弟関係、家庭環境を共有し、今後の統合に向けた地盤を固めている。
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	・教育相談という形にとらわれず、いつでも気楽に、話せる・相談できる信頼関係のさらなる構築を目指す。 ・小学校からの情報は絶えず教職員の中で共有し、守秘義務の元、対応していく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	・いじめに関するアンケート ・クラスマネジメントシート ・教育相談のまとめ
自己評価	学校関係者による意見・支援策
	・小中連携して、児童生徒の様子を見てほしい。 ・いじめの無い小栗栖中学校であってほしい ・学校運営協議会といじめ防止に向けて、積極的に協力する。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
・いじめに関するアンケートの結果については丁寧かつ迅速に対応することができた。 ・アンケートについては、正直に書く傾向が見られ、指導への活用に効果的である。 ・生徒、保護者、地域、教職員が同じ視点でいじめに対する意識を持つこと大切に行っている。	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	・補導部会に加え、いじめ対策委員会を定期的に開催し、クラス、学年を超えて共通理解ができた。 ・保護者との関連を良好にすることで連携を取ることができている。

	・コロナ禍ではあるが、教育相談については確実に設定し、少しの時間でも直接会話することに関心を持っている。生徒にも浸透している。 ・3小学校との連携の中で、兄弟関係、家庭環境を共有し、今後の統合に向けた地盤を固めている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・来年度の年間計画にも教育相談は確保できた。 ・補導部会・いじめ対策委員会の定期的な開催と連携の強化 ・保護者との連携を密にする。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・地生連でも必ず話題に上がってくる。見逃しの無いように取り組んでほしいとの要望を毎回受けている。 ・学校評価アンケートでも生徒 65%，地域保護者 70%と「いじめや暴力を許さない学校づくり」という点で評価をいただいている。さらに高みを目指していきたい。